

Express5800/R110k-1 ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠にそれぞれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ず
ご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システムROMの機能に関する注意事項
- 3) iLO 5の機能に関する注意事項
- 4) OSに関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」で、「3170102700」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報
サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-010.02 以上を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-010」を検索)

● VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されて
います。Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

- (1) Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示され
る「Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver (VMware ESXi 7.0 版)」を適用し
てください)

- (2) WBEM プロバイダおよび CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「WBEM プロバイダ」を検索し、「【最新版】WBEM プロバイダおよび
CLI ツール (VMware ESXi 7.0 版)」を適用してください)

- (3) VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ (Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

● 本製品の保守作業時間に関して

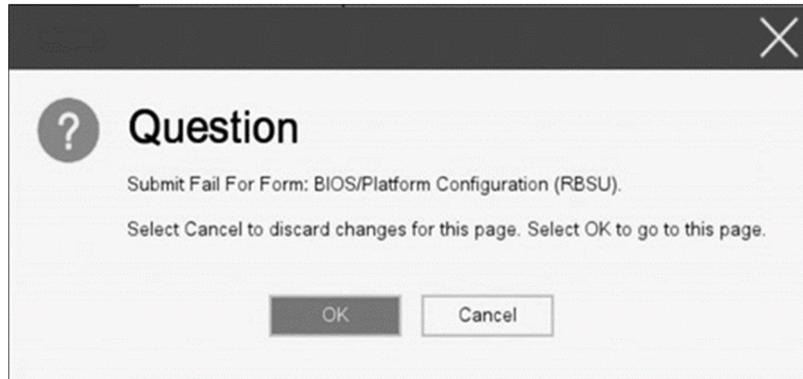
本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせに
よっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) システムROMの機能に関する注意事項

● Submit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次のSubmit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合



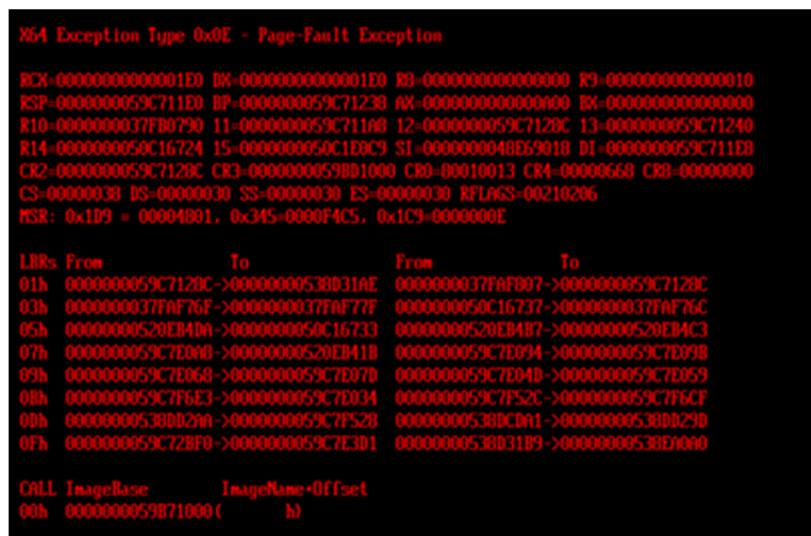
日本語表示の場合

● 赤文字画面 (RSOD : Red Screen of Death) が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合や、接続デバイスへのアクセスタイミングにより、OS起動前に稀に赤文字画面 (RSOD) が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源OFF/ONによって回復します。

赤文字画面 (RSOD) が表示された場合、装置の電源OFF/ONをお願いします。

問題が解決しないときは、ファーストコンタクトセンターにお問い合わせください。



赤文字画面の例

● 「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

1. iLO Web インターフェースの [システム情報] - [メモリ] - [メモリの概要] の “動作周波数” が 2666MHz 以下の場合、本問題が発生した次の POST 起動で、インテグレートドマネジメントログ (IML) に以下のログが記録されます。

例: 221 - Unknown Initialization Error. The system has experienced a fatal initialization error.
- System Halted! (Major Code: XXXXXXXX, Minor Code: XXXXXXXX).

本問題が発生した場合、ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

2. IML に記録されず、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止した場合、システムメンテナンススイッチの SW6 によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。
詳細な手順は、メンテナンスガイド「1 章 (7. 4. 3 システム設定をデフォルト値に戻す)」の項をご参照ください。

● システムユーティリティおよびワнтаイムブートメニューの表示について

RAID コントローラ (N8103-189、N8103-190、N8103-191、N8103-192、N8103-193、N8103-194、N8103-195、N8103-196、N8103-197、N8103-201、N8103-237、N8103-238) のファームウェアバージョンが v4. 11、または v3. 01. 04. 072 の場合、ワнтаイムブートメニューと RBSU の PCIe Device Configuration メニュー(*)に、RAID コントローラ名が正しく表示されないことがあります。RAID コントローラ名表示のみの問題であり、RAID コントローラに搭載されている HDD/SSD からのブートには影響しません。

(*)RBSU > PCIe Device Configuration

● プロセッサごとの有効なコア数設定についての注意事項

システムユーティリティの Enabled Cores per Processor(*)に「1」を設定した場合、POST 中に応答しなくなることがあります。

Enabled Cores per Processor に「0」、または「2」以上を設定してください。

(*) RBSU > Processor Options > Enabled Cores per Processor

● Server Configuration Lock (SCL) についての注意事項

- (1) システム運用中は SCL 機能を無効にし、使用しないでください。
- (2) SCL 機能が有効時に設定するパスワードは大切に保管してください。SCL のパスワードを紛失した状態で、SCL 機能によりロック (OS ブート前に停止) されると、ロック解除できず、二度とブートできなくなります。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

なお、SCL のパスワードを紛失した場合、SCL のパスワードをクリアする方法はありません。

- (3) 保守を依頼する際は、SCL 機能を無効化していただく必要があります。
SCL 機能を無効にできない場合、**保守は有償にて承ることになります。**
- (4) RBSU の「Halt on Server Configuration Lock failure detection.」機能は有効化しないでください。もし有効に設定した場合、SCL 機能が回復不能条件の該当を検出し、ロック (OS ブート前に停止) されてしまうと、システムユーティリティも起動できず、二度とサーバー構成ロックを無効にすることができません。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

SCL 機能の回復不能条件

- RBSU の設定変更によりロックされた場合
- ファームウェア更新によりロックされ、元のファームウェアバージョンに戻すことができない場合
- DIMM、または PCI オプションカードの故障によりロックされた場合

- (5) SCL機能を使用する場合、TPM Visibilityオプション(*)がVisibleに設定されていることを確認してください。

(*) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security
> Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options > TPM Visibility

● System Informationに未搭載のProcessor 2~4の情報が表示される

システムユーティリティのSummary、またはProcessor Informationに、未搭載のProcessor 2~4の情報が表示されます。

表示のみの問題であり、システムユーティリティの動作に問題はありません。

3) iLO 5の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST (Power On Self Test)実行中も含まれます)は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST (Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース : [Information] - [Overview]ページにおけるUUID、UID(論理)が不正な表示になる場合があります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

<対象となるiLOの再起動の方法>

- iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定にリセットを行った場合においても、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Dashboard]およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 5ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLOの時刻設定について

iLOの時刻設定は、iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。

iLOのSNTPの設定方法については、iLO 5ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO WebインターフェースのUUID不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information] - [Overview] ページのUUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効(※)に設定した場合の注意事項

(※) [Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定する。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報サービス
- ・サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● 物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知のロケーション情報欠損に関する対処について

物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知において、ロケーション情報が欠損する場合があります。ロケーション情報に関しては、iLO webインターフェースの[情報]-[インテグレートドマネジメントログ]で同じイベントのロケーション情報をご確認ください。

例:

```
Abnormal, physical drive status change detection, iLO SNMP Trap, mgr_WIN-U6HIHPNIH1Q, uru-rhel83, 192.168.0.57, 2021/10/01 15:22:57, iLO, 0xc0000be6, "A physical drive status change has been detected. Current status is 3. (Location: ot 12 Controller: Slot 12)", "If the physical drive status is 'failed(3)', 'predictiveFailure(4)',
```

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成し、iLO 5ファームウェア2.31以上でご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● N8115-43 トップカバーオープン検知キット搭載時の注意事項について

トップカバーを閉めた際、iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Log]に、以下のイベントが記録される場合があります。

UNKNOWN EVENT - Class [0x3a] and Code [0x8]

本イベントは、同時にIntegrated Management Log (IML)に記録された以下のイベントを示すもので、サーバの動作に影響はありません。

- Class : 0x2
- Code : 0x30
- Description : The chassis hood has been replaced.

● iLO WebインターフェースのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Webインターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLOリセットを行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network]の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service (AMS)の再起動方法 >

○ Windowsの場合

Windowsの管理ツール → サービス → “Agentless Management Service”を右クリックし、再起動してください。

○ Red Hat Enterprise Linux 8.xの場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
# systemctl restart amsd
```

○ ESXi7.0の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsd restart
```

● iLO5 Ver2.65以降の注意点

iLOwebインターフェースの「システム情報」>「デバイスインベントリ」で BackPlane (BP)の位置情報が不正になる場合がありますが表示だけの問題で動作に影響はありません。

正常時) Slot=#:Port=#:I:Box=# ※#は接続先により番号が変わります。

不正時) Slot=#:Port=?I:Box=? 数字の部分が?と表示されます。
 または Box=# Boxのみ表示されます。

4) OSに関する注意事項

● EXPRESSBUILDERでのWindows「手動」インストールについて

EXPRESSBUILDER から Windows をインストールするとき、「手動」オプションを選択した場合であっても、インストール先ディスクのパーティションがすべてクリアされます。再インストール時、ユーザーデータが存在する場合は注意してください。

● Windows Server OS ご使用時の注意事項

サポート対象のWindows Server OS でUSB デバイスをお使いの場合、以下のシステムイベントログが採取されることがあります。

これについては、システム動作上問題ありません。

<イベントログ>

```
ID      : 1
ソース  : VDS Basic Provider
レベル  : エラー
説明    : 予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004
```

● Windowsデバイスマネージャに「不明なデバイス」が表示される

システムユーティリティの「Intel (R) TXT Support」オプションを「Enabled」に設定されている場合、Windows (R) デバイスマネージャに「不明なデバイス」が表示されることがありますが、システム動作上問題ありません。

● VMware ESXiを使用する場合の注意事項

ESXi 起動時の VMware vSphere の監視 > ハードウェア > システムセンサー > センサーの表示について。

- (1) ESXi 起動完了後、下記のセンサーの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『警告(黄色)』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。
 - Cooling Unit 1 Fans
- (2) ESXi 起動完了後、下記のセンサーの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『?』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。
 - System Chassis 1 UID

● ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス (MG)に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス (MG) のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。

以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。

各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 2.10 以上	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成タブ - サーバー状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される ・ リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存、IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	Version 6.47 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ESMPRO/ServerManager Ver.6 (Windows 版) のアップデート方法

- (1) 以下の Web サイトより最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストレーションガイド(Windows 編)」の「2章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆ESMPRO/ServerManager Ver.7 (Windows 版) へのアップデート方法

- (1) 以下の Web サイトより ESMPRO Platform Management Kit をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010109532>
ESMPRO/ServerManager Ver.7 は ESMPRO Platform Management Kit に含まれています。
- (2) ESMPRO Platform Management Kit の ESMPRO インストールツールを起動します。
- (3) インストールツール画面の説明書をクリックし、Software Manuals から ESMPRO/ServerManager をクリックします。
- (4) 「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド(Windows 編)」をクリックします。
- (5) 「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド(Windows 編)」の「2章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager を Ver.6 から Ver.7 へアップデートします。

(次ページへ続く)

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象
※エクスプレス通報サービス (MG) をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
Version 2.10 以上	ilo_jp.mtb Version 1.4.0 未満 iml_jp.mtb Version 1.5.0 未満 ※iLO 管理機能向け の受信情報設定 ファイルは2種類 あります。	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下の Web サイトより最新版の受信情報設定ファイル MGMTB.zip をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
受信情報設定ファイル(ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd)は MGMTB.zip に包含しています。
- (2) 「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。
- (3) (1) でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」は以下の Web サイトからダウンロードしてください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

- ◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法
サーバー本体の UID ボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。
- ・ ネットワーク経由で確認する方法
iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

- ◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● Intel (R) Virtual RAID on CPU (VROC) ユーティリティについて

Intel (R) Virtual RAID on CPU をお使いの際は、SmartStorageAdministrator ではなく Intel (R) Virtual RAID on CPU 専用のユーティリティをご利用ください。
Intel (R) Virtual RAID on CPU ユーティリティは、お客様にインストールしていただく必要があります。
インストールされていない場合は、保守を行う際に装置の電源を OFF にする必要がありますのでご注意ください。
詳しくは、Starter Pack 内の「Intel (R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ ユーザーガイド」を参照してください。

● Intel (R) Virtual RAID on CPU (VROC) ユーティリティの制限事項

「Intel (R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ ユーザーガイド」の制限事項を参照してください。

● Linux OSを使用する場合の注意事項

OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCIアドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCIスロットへのカード増設/抜去、および、CPU構成変更を行わないでください。PCIバスのアドレス情報が変化し、PCI接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat Enterprise Linux 8 (x86_64) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される

Red Hat Enterprise Linux 8 (x86_64) 起動時のsyslogにPCI関係のメッセージが記録される場合があります。

```
kernel: pcieport 0000:00:1d.0: can't derive routing for PCI INT A
```

```
kernel: pcieport 0000:00:1d.0: PCI INT A: not connected
```

PCI-Expressからの割り込み処理の割り当てができない事を示すメッセージです。

当該機種では、メッセージが示す PCI デバイスは未接続のものであり、特に動作に影響はありません。

5) 全般の機能に関わる注意事項

● Serial Number、Product ID が消失された場合の対処について

Serial Number、Product IDが消失された場合、以下の手順にて復旧することができます。

- (1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
- (2) 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- (3) POWERスイッチで装置の電源をONにします。
- (4) サーバーが起動し、POST画面が表示されます。
- (5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、「1章(7.3.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU設定の初期化をします。
- (6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial NumberとProduct IDの値を確認します。
- (7) Serial NumberとProduct IDの値が期待する値の場合は、手順14)に進みます。
- (8) Serial NumberとProduct IDの値が期待する値ではない(消失している)場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- (9) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- (10) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- (11) 自動的に装置が再起動し、POST画面が表示されます。
- (12) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
- (13) 装置のスライドタグに記載されているSerial NumberとProduct IDをシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



【重要】 Product IDとは、『N8100-2951Y』のような型番のことです。

- (14) RBSU設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、そのRBSU項目の確認と再設定をします。

● UPS 接続時の注意事項

- ・ UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。

- (1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
- (2) System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。

● N8103-184 SAS コントローラ ご使用時の注意事項

N8103-184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● EXPRESSBUILDER ヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの記載を優先してください。

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

● サーバ診断カルテの制限事項

- ・ サーバ診断カルテは Intel VROC (Virtual RAID on CPU) に対応していません。このため、Intel VROC で RAID を構成している場合、RAID 情報が表示されません。最新のサポート情報は下記の Web サイトをご確認ください。

NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

- ・ サーバ診断カルテを Windows Server 2022 環境で利用する場合以下の制限があります。

■ Windows 対応版

サーバ診断カルテ (Windows 対応版) では、下記項目には対応していません。

- ① ソフトウェアログ情報
- ② ハードウェア構成情報の下記項目
 - ・ 製品情報
 - ・ 物理ディスク情報の累積稼働時間
 - ・ RAID 物理ディスク情報の累積稼働時間

※最新のサポート情報は下記の Web サイトをご確認ください。

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

■ VMware ESXi 対応版

サーバ診断カルテ (VMware ESXi 上のゲスト OS 版対応版) では、下記項目には対応していません。

- ① ソフトウェアログ情報
- ② 仮想マシン登録情報の下記項目
 - ・ 仮想マシン情報の累積稼働時間

※最新のサポート情報は下記の Web サイトをご確認ください。

NEC サポートポータル (VMware ESXi 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107805>

● Intel (R) Software Guard Extensions (SGX) オプションについて

本機能をサポートする CPU は下記 3 タイプの CPU のみとなります。それ以外の CPU において、Intel (R) Software Guard Extensions (SGX) オプションが表示される場合でも、Disabled (デフォルト値) の設定から変更しないでください。下記 3 タイプの CPU 以外では本機能をサポートしていません。

- ・ N8101-1826 (6C/E-2356G)
- ・ N8101-1827 (4C/E-2374G)
- ・ N8101-1829 (8C/E-2388G)

● Intel® Virtual RAID on CPU 使用時の注意事項

◆ディスクのステータス(縮退/リビルド)が本体装置前面のディスクLEDで確認できない。
Intel® Virtual RAID on CPUのユーティリティでディスクのステータスを確認してください。

◆物理デバイス进行操作していないにもかかわらず、以下のログが登録される場合がある。
操作していない場合は、無視してください。

Embedded SATA Storage - Drive at Box n Bay m status changed to Inserted
Embedded SATA Storage - Drive at Box n Bay m status changed to Removed

◆iLO WebインタフェースのSATA-SSDの寿命監視は未サポートです。

◆iLO Webインタフェースのストレージ情報は未サポートです。

(1)論理ドライブを構築していても、“未構成のドライブ”と表示されます。

(2)ドライブの位置がBox/Bayの順番に表示されません。

順番に表示されないだけで、ステータス/容量/メディアタイプは搭載のデバイスの情報を表示していますので、問題はありません。

NEC iLO 5 2.60 Dec 06 2021 システム情報 - ストレージ情報

概要 プロセッサ メモリ ネットワーク デバイスインベントリ **ストレージ**

ストレージ情報

Embedded SATA Controller #1

位置	ステータス	モデル	合計ボリューム数	合計ドライブ数
System Board	有効	Embedded SATA Controller #1	0	6

(1) 未構成のドライブ

位置	ステータス	容量	メディアタイプ
SATA Drive Box 2 Bay 4	有効	1 TB	HDD
SATA Drive Box 2 Bay 2	有効	150 GB	SSD
SATA Drive Box 2 Bay 3	有効	1 TB	HDD
SATA Drive Box 1 Bay 1	有効	1 TB	HDD
SATA Drive Box 1 Bay 2	有効	1 TB	HDD
SATA Drive Box 2 Bay 1	有効	150 GB	SSD

● N8117-18 RS-232C コネクタキット搭載時の注意事項について

N8117-18 を使用した、シリアルコンソールリダイレクションはできません。

BIOS Serial Console Portオプション(*)をVirtual Serial Portに設定し、iLO経由でのリモートシリアルコンソールリダイレクションを使用してください。

(*) System Utilities > System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU)

> System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port

● N8101-1822 CPUボード(2C/4. 10GHz/Pentium G6405) 使用時の注意事項

N8101-1822 CPUボード(2C/4T/Pentium G6405)、かつPCIカードを搭載している際にPOST画面またはIMLログに以下のログが登録されることがあります。

“ The device in PCIe Slot x is SRIOV capable but is installed in a slot that does NOT support SRIOV.”

このCPUボードがSR-I/OVをサポートしていないためであり、登録されてもシステム動作上問題ありません。

● N8103-239 480GB OSブート専用SSDボード (RAID 1) 使用時の注意事項

本製品を使用する場合は、以下の設定を変更してください。

◆ 設定手順

- (1) 起動プロセス中に<F9>キーを押して、システムユーティリティにアクセスします。
- (2) 「System Configuration」メニューで、BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options > Thermal Configurationを[Increased Cooling]を選択します。
- (3) <F10>キーを押して、構成を保存します。
- (4) サーバーを再起動します。

● Windows Server環境でWHEA Logger ID:1登録時の注意事項

本ログが登録された場合は、以下の手順を実施してください。

- (1) Window OSをシャットダウンしてください。
- (2) ACケーブルを抜去してください。
- (3) 約60秒後にACケーブルを挿入してください。
- (4) 本体装置の電源ボタンを押して起動してください。

本手順でも問題が改善しない場合は本体装置のファームウェアの更新または保守部門に連絡をお願いします。

● オンボードSATA (AHCIモード) 使用時の注意事項

オンボードSATA (AHCIモード) SATA-HDD構成でシステムクラッシュが発生した際、OS自動再起動を設定しているにもかかわらず、起動しない場合があります。そのときは“CTRL+ALT+DEL”キーを押すなどして本体装置を再起動してください。再起動によってOSが自動で起動するようになります。

■ 本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター
TEL : 0120-5800-72
受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)
※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC



* CBZ-051611-001-01 *

2022年 5月 第4版